

目安に設計すること。ただし、発注図書は、追加調査結果を反映すること。

- ・落ち残りの重力式擁壁は全撤去とするが、背面が不安定化している可能性があるため、安全確保するための施工計画とすること。
- ・道路附属物は、ガードレール＋転落防止柵とし、アスファルト舗装は土色とすること。
- ・地下埋設物の復旧方法は、緊急車両用道路の計画図面を作成した後、施設管理者と協議を行う。

3. 斜面对策工

- ・斜面对策工は、A 箇所・B 箇所ともに「クモの巣ネット工法」で検討すること。B 箇所は「ワイヤーネット工法」も考えられるが、斜面に転石が多く落石を防止できないため、採用しない。
- ・A 箇所の傾倒した樹木やB 箇所の樹木については、倒木により斜面对策工に影響を与える可能性があることから施工計画上伐採するものとする。ただし、A 箇所・B 箇所ともに除根はしない。
- ・横ボーリング工法は、今後実施する浸透流解析結果を踏まえ、施工箇所を精査すること。

4. 設計定数

- ・室内土質試験結果から得られた強度定数 c ϕ については、技術検討委員会で検討に使うものと、設計に使うものと分けて考えること。

5. 流路工

- ・緊急車両用道路に設置されている仮排水路は残置する計画として今回の復旧工事には手を加えないこと。ただし、城郭上方より流下する地表水の処理はB 箇所内に水路を整備して流下させる計画とすること。
- ・流路工で対象とする流量は、下部の既設下水管渠の流下能力以下の流量とすること。
- ・流路工が応急対策工事で設置した組立3号MHに接続可能か、MH下流側のHP ϕ 600の流下能力を確認すること。
- ・流路工は、現場打ちでなくプレキャストのフリーム等とし、種別については今後比較選定すること。
- ・流路工の周辺地盤（崩壊地）は浸食防止のため、植生工を検討すること。ただし、外来種が混入しないよう、種子なしとする。
- ・応急対策工事で設置したD谷の仮排水管は存置するが、コンクリートキャンバスは撤去すること。
- ・応急対策工事で設置した待ち受け対策（VCCO）は存置すること。
- ・県実施の待ち受け擁壁とその周辺の形状（資料を後日貸与）に合わせて水路工の配置計画を行うこと。

6. 避難指示レベルに配慮した施工計画

- ・応急対策工事で設置した待ち受け対策（VCCO）を一時的に取り外すことも考えられるため、施工時における下流の住民の安全性を考慮した施工計画を立案すること。

7. その他

- ・愛媛県の急傾斜施設の復旧によって、施工計画が大幅に変わる可能性があるため、大まかな計画が出来た時点で、県との協議を進める。

以上